

秋田大学学生海外派遣支援事業 帰国報告書

記入日：2016年1月10日

氏名：山崎 達也

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 3年

派遣先大学名：セント・クラウド州立大学（アメリカ合衆国）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：1年間

渡航年月日：2015年 1月 8日

帰国年月日：2015年 12月 22日

○派遣先大学における授業などの履修状況

授業名	履修期間	講義時間（週）	取得単位数
TESL Methods: Reading and Writing	Spring Semester (2015/01~2015/05)	155分×1 +教育実習3時間	3
ESL and Culture	Spring Semester	90分×2	3
Listening and Speaking for Academic Purposes	Spring Semester	120分×2	4
Reading and Writing II	Spring Semester	120分×2	4
English Syntax	Fall Semester (2015/09~2015/12)	75分×2	3
Literacy for L2 Learners	Fall Semester	170分×1	3
Intercultural Communication	Fall Semester	75分×2	3
Teaching ESL: Theory and Methods	Fall Semester	155分×1 +教育実習3時間	3

○研究・学習概要及び今後の学習計画

私は中学校の英語教員を目指しているため、第二言語教育に関する授業や又それに関連して異文化理解の授業などを取りました。また、授業の一環で週に一度、配属の中学校で教育実習をさせていただきました。

アメリカの現地の学校での教育を知り、日本の教育と比較することで双方の長所や短所について考えることができたことは自分にとって、とても有益であったと思います。また、一介の留学生である自分が現地の学校での教育を肌で感じる事ができたのはとても貴重で、留学でしかできない体験だと感じました。正直、アメリカと日本の教育スタイルに違いがあり過ぎて、見て学んできたものをどう生かせるのかと心配もありますが、今後さらに第二言語教育や教育分野全般を通しての理解を深め、自分のものとして取り入れていけたらと思います。

(シティの街並み)

○生活面について

キャンパス内には寮が6つほどあり、主に現地の新生や留学生がそこに住みます。私は **Case Hill Hall** という寮に住んでいました。部屋はアメリカ人の学生とルームシェアをしていました。比較的新しい寮で自習室やキッチンなど寮内の設備が充実していてとても住みやすかったです。また、私は学校でミールプランを取っていたので、食事はキャンパス内にある食堂でとることが多かったです。ビュッフェスタイルの食事なので食べたいときに食べたい分だけ食べることができました。それでもたまに他の美味しいものが食べたくないと、友人と外食に行ったりしました。様々な人種の人々が共存している土地柄なので、インド料理やメキシコ料理など、日本ではあまり親しみがなかった食べ物にも多く出会うことができ、楽しかったです。



キャンパス内には映画館やカフェ、スポーツジムなど設備が充実していて、平日はほとんどの時間をキャンパス内で過ごしていました。休日になると、友人の車で買い物やシティに出かけることが多かったです。日本と違い、電車が通っていないため交通の面で不便に感じることはありましたが、それを考慮していつも車を出してくれていた友人のおかげでいろいろな場所へ行くことができました。

ニューヨークやロサンゼルスのように特に世界的に有名な観光地もなく、日本人や観光客の少ない土地ですが、だからこそ現地の人々の生き様を感じながら、自分もそこで暮らす一人として生活に溶け込めたのではないかと思います。ミネソタ州は留学をしなかったら一生行くことのない場所であったと思いますが、今ではそこにある街並みや人々、生活の一つ一つが懐かしくまた恋しく感じます。

(夏休みのキャンプにて現地の子供たちと)

○その他留学全般にわたる感想

一年を振り返って、本当に充実していて楽しい一年間でした。海外での長期滞在が初めてであった私にとってはすべてのことが新鮮で、また挑戦の連続でした。いろいろなことについて考え感じ、精神的にも大きく成長できたのではないかと思います。

私は **JP Network** という日本に興味がある学生で構成されている学生団体に所属していたので、日本のこと



を知りたいという方々にたくさん出会うことができました。日本人として文化や日本語を教えたりする事で、日本という国について違った目線から考えるよいきっかけとなりました。

また、心の許せる友人ができ、英語でもっと伝えたいという気持ちが自分の英語力に大きな影響を与えてくれたのではないかと思います。英語を使って自分に何ができるのかということについてもよく考えました。当たり前のことかもしれませんが、英語もひとつの言語であり、ただ英語を話すと言っても、そこに自分の個性や周りの状況などが加わって初めてその言語として成立するのだということに気づかされました。

この貴重な素晴らしい一年間を、自分の中だけでただの思い出として終わらせることのないよう、今後も新たな目標をもち、これを生かしながら自分の人生を歩んでいきたいと思います。

最後になりますが、私が留学をするにあたってたくさんの援助をしてくださった秋田大学の職員、先生方、それに家族、友人に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。



(Japan Night というイベントで披露したソーラン節)